

「大能の力によって強められなさい」エペソ6：10，11

堀田修一 20・10・25

I 「終わりに」：10。これまで語られた事＝

1. あいさつ。1：1，2。
2. 神の救いのご計画。1：3－14。
3. パウロの祈り＝神の偉大さを知る。1：15－23。
4. キリストの体である教会の形成。2：1－22。
5. 教会の召し。3：1－21。
6. 教会の実践的生活。4：1－6：9（※5：19－20。①神との関係。5：18と21を根底に→②夫と妻の関係。③親子の関係。④主人と奴隷の関係）。これらの順序は大切→神の救い、恵みが先に（1－3章）あり、その恵みへの応答としての実践（4－6章）が語られる。本日の「終わりに言います」は、これまで述べてきた事の続き。仕上げ。どうしても言わなければならない事がこれ！この地上で主を証しするキリスト者として生きるなら、必ず霊的な戦いがある。それを悟らず、油断し、霊的に眠り、神の大能の力によって強められ神の武具を身に着けないなら霊的な敵に敗北してしまう。そうならないために、6：10－20の御言葉がある。感謝！私達は弱い。しかし、主は全能の強いお方！

II 「主にあって、その大能の力によって強められなさい」：10。

1. 「主にあって」。これが強められる最大の秘訣！大切な鍵となることばは「主にあって」（パウロの手紙に数えきれないほど出て来る）＝「あって」原語：エン：の中で（に）、近くに、側に、密接な結合・関係・霊的交わり・結合。主を信じ主とのしっかりとした命のつながり。「わたしに（エン）とどまりなさい。わたしも、あなたがたの中に（エン）とどまります。…わたしはぶどうの木で、あなたがたは枝です。人がわたしに（エン）とどまり（主と霊的に繋がる、主を信じ、みことば、祈り、主の体なる教会につながる事により、主から樹液、栄養をいただく）、わたしもその人の中に（エン）とどまっているなら、そういう人は多くの実を結びます（神の栄光を現わし、主を証しする実、愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔和、自制という実）。わたしを離れては（主を信頼せず、祈りとみことばからも遠ざかり、主の教会からも離れる）、あなたがたは何もすることができない（神の喜ばれない罪を犯す事は出来るが、神の栄光の為の実を結ぶことが出来ない、霊的に勝つ事は出来ない）」（ヨハネ15：4，5）。主にとどまり（つながり）続けるとは＝主を信じ主と霊的に繋がり続ける。主に近づき、みことばと祈りにより主と深く交わり、罪が示されたら神に告白し悔い改め主にとどまる。主の体である教会（礼拝・主にあって互いに交わり祈り合う）につながり主にとどまり続ける。主の中にしっかり根ざす。苦しみ、試練、戦いの中でも主から目を離さず主の中にとどまる。
2. 「その大能の力によって（エン：あって）」。「大能」：イスコース、強さ、力の意。「力」：クラトス、力、威力の意。1：19に同じ原語がある→「神の大能の力（同じ原語）の働きによって私たち信じる者に働く神のすぐれた力が、どれほど偉大なものであるかを、知ることができますように」。本当に神ご自身を知ることが出来るように祈りましょう！

3. 「強められなさい」：現在命令形。「いつもいつも繰り返して強められ続けなさい」。苦しい時だけの神頼みではなく、いつもいつも主に繋がりに強められ続ける。この強さは、私達の中から出る強さではない。頑張れば、できる強さではない。主に繋がっている事により主から注ぎ込まれる力、強められる強さ。では、すべて自動的であり私達がなすべき分はないのだろうか。いいえ。私達の分を神は与えておられる。それは、私達が、主から離れないで、とどまり、主に拠り頼み続ける事。主と深く交わり続ける。同じ言葉「強くする」の他の箇所→「私は、私を強くして下さる方によって、どんなことでも（あらゆる境遇に対処することが）できるのです」（ピリピ4：13）。弱さを持つパウロ、そして私達への主の励ましの答え＝「わたしの恵みはあなたに十分である。というのは、わたしの力は弱さのうちに完全に現れるからである」Ⅱコリント12：9。「わが子よ。キリスト・イエスにある恵み（主の十字架の血の恵み、復活の新しい命の恵み、赦しの恵み、主の御言葉の恵み、主につながる事により流れてくる恵みの命の力）によって強くなりなさい」Ⅱテモテ2：1。常に恵みが先！ハレルヤ！「私を支持する者はだれもなく、みな私を見捨ててしまいました。…しかし、主は、私とともに立ち、私に力を与えてくださいました」4：16, 17。「弱い者なのに強くされ」ヘブル11：34。今も主は、私達は弱くても強くして下さる！私達の弱さは、マイナスではない。その分、真剣に、必死に主に拠り頼める。※私の証し：私は、主に出会い、約46年です。私は弱さがいっぱいです。しかし、ここまで主は支えて下さり、今の私があります。調子が良いと高慢になり易い私。それ故、主は、私に弱さや試練を与えて、主に心から拠り頼む事、失敗から学ぶ事を教え続けておられます！どんな時も主に拠り頼みましょう！

Ⅲ「悪魔の策略に対して堅く立つことができるように、神のすべての武具を身に着けなさい」エペソ6：11

1. 真の神に敵対している悪魔は、私達を主から離そうと色々な策略（複数）＝①金銭、欲張り、貪欲、不正、安易な儲け話、薬物等にはまる。②不品行、徐々に墮落させる、魔が指す。③名誉欲、主の栄光を盗む、慢心、高ぶり、力を下さる主を忘れ、自分の力でやったと思い上がる、油断。主に真剣に祈らないで事を進める。④争い、憎しみ、恨み、ねたみ。⑤悪魔なんかいないと思わせ、油断させ、神に頼らない等。

2. 「堅く立つことができるように、神のすべての武具を身に着けなさい」。悪魔の策略に対して、備えも武具もなく、悪魔に立ち向かうなら、すぐにやられてしまう。そこで、どうしても必要な事は＝「神のすべての武具を身に着けなさい」。「神の武具」。人間の武具、人の知恵、力では役に立たない。神によって備えられる武具。悪魔の策略は複数形。それに対する神の武具は、複数形どころか、神の「すべての」武具。原語：重装兵士の全武具。あれとかこれとか、一つ二つではなく、神の備えられる全武具。「身に着けなさい」→油断せずに、神が備えて下さる礼拝の恵み、御言葉、祈り、祈り合う交わり、主の恵みを数える感謝、賛美の力、どんな時も主を信頼する信仰という武具を日々絶えず身に着け、しっかり備えて悪魔の策略に立ち向かうことができますように。

「誘惑に陥らないように、目を覚まして、祈っていなさい」マタイ26：41